アガペワールド

London
Keiko C Holmes
35 Leyburn Gardens
CR0 5NL London
E: agape.kingdom@gmail.com
Tel: +44(0)20 8686-4263
www.agapeworld.org

日本
小菅啓子
横浜市南区中村町５−３０８−１２
E:victory8068@gmail.com
Tel: 090-1266-3390
www.agapeworld.co.jp

今回も皆さんの御親切なご支援によって、いろんなニュースをお送りできますことを心から感謝いたします。今ロンドンでは、病気見舞い、葬儀出席、慰問、教会でのメッセージ、地域社会の集まりで講演、Agape Bible Fellowship、などを主にしています。ここに代表的なものを載せました。先日ロンドンで103歳のユーモラス元捕虜医師に会いました。今でもコンサルタントとして現役で活躍中です。皆さんもいつまでも健やかに御過ごしくださいますようお祈りいたします。なお、アガペ関係者の敬称は紙面の都合で省きました。

サム・ハリス

晴恵さんと私は今年１月２１日にサムを見舞いに行きました。やせ細ったサムは病院のベッドで眠っていました。サムの息子、ピーターは、「殆ど寝ているんだよ」と言いながら、サムを起こしてくれました。サムはちょっと目を開け、私たちが来ていることを確認しました。喜びの表情を見せて私たちに何か言いかけましたが、言葉にはなりませんでした。そして、すぐに眠ってしまいました。起こしたり眠ったりの繰り返しでした。翌々日サムは亡くなりました。彼の葬儀にはスポーツを愛する人たちがたくさん参列していました。サムが孫たちの参加するフットボールやラグビーの見学・応援にいつも顔を出し、多くの友を得ていたからです。ピーターとは親しくなりました。サムは日英両国で多くの人に愛されました。そして日本をこよなく愛してくれました。

Peter, Keiko, Shuko & Sam

ジョージ・ハウスゴー

ジョージは1995年に和解の旅に参加し、以後すっかり日本びいきになり、奥さんのジューンと日本人を泊めたり食事に誘ったりたりし、和解に貢献していました。我が家でのパラダイスランチには必ず参加していました。ジョークを飛ばし、元気そうだったジョージでしたが、病院に入院して数日後に亡くなりました。彼の葬儀には駐英林大使も参列されました。アガペワー

ルドの理事、ジェフ（退職牧師）とポーリーン牧師が葬儀を執り行いました。非常に多くの方が集まり、ジョージの死を悼みました。葬儀の後の集まりで、私たちは新しい元捕虜や家族の方々に出会いました。今はジューンが彼の分も頑張っていろんな催しに出ています。

斎藤安子ロンドン訪問

斎藤安子の訪英については多くの方々にお祈りいただきました。おかげさまで無事に役目を果たして帰国することができました。ありがとうございました。滞在は5月1日から13日までの13日間でした。3年前の和解の旅でお世話をし、友達になったケンを訪問、パラダイスランチに出席。またチェルシーホスピタル（退役軍人の宿舎）に住む元捕虜ダグラスを訪問しました。その時の彼女の活動を以下にまとめてみました。

パラダイスランチ

今年１月と５月にパラダイスランチを催しました。５月には新しく元捕虜のビルさんが来てくれました。とても若々しくユーモアたっぷりの方です。教会で出会ったアレック（父親が泰緬鉄道）も初めて来てくれました。今回は非常に遠くから和解のことを調査しているという牧師

さんもいらっしゃり、非常に感動したとのことです。アガペの和解活動はスペッシャルだ、と翌日メールをくださいました。

ダグラス訪問

ダグラスは98歳ですが、さすが英国紳士です。予約を取って会いに行った私たちを、小綺麗に身を整え、暑いのにジャケットを着て、車椅子で出迎えてくれました。彼の住んでいる建物は数年前に新しく建てられたとても清潔な退役軍人の宿舎です。その１階の住民用の格安の軽食喫茶に私たちを招いてくださり、軽食をすすめてくれました。その後彼の部屋に案内してくれ、少しおしゃべりをしたのち、宿舎の中を案内してくれました。先ず彼の部屋の近くにはGameの部屋があり、彼はそこで水曜日にはスクラブルという言葉のゲームをするそうです。下の階には小さなチャペルがあり、日曜日や他の日にも

短い礼拝があり、ダグラスはよく出席するとのことでした。別の建物には大きな何百年も前からある厳かなチャペルがあります。このチャペルはオックスフォド大学などにあるチャペルと同じようなサイズです。彼は私たちをパブにも連れて行ってくれました。私たちはジュースを飲みながら会話を楽しみました。全てが宿舎の中にあり、医者や看護婦さんが住んでいて高齢の退役軍人の方々が安心して住めるようになっています。郵便局もあり、そこには素敵なお土産が数多く揃えられています。そこに住んでいる退役軍人のおじいちゃんたちが店員さんです。皆さん、とてもフレンドリーな方々です。お別れの前に安子が彼のために祈りました。祈りのことばをじっくり味わい、頷いていました。非常に柔らかい、温かいおじいちゃんです。

ケン訪問

5月11日、安子、晴恵、フランセスカ（晴恵の娘）そして私の４人が晴恵の運転で、車で２時間ほど離れたケンの家を訪問しました。彼は今95歳で一人で住んでいます。いたって健康で自分で食事を作り、野菜を育てています。畑にはサヤインゲン、キャベツ、ルバーブ、その他の野菜がすくすくと育っていました。勿論、日本に旅した時に世話をした安子に再会でき、大いに喜

んでいました。ひとしきり話し、その後でパブでの昼食に連れて行ってくれました。食事は美味しく、話しも弾みました。私たちはケンの健康、安全、再会を祈ってお別れしました。

YWAM再訪問

5月26日から27日まで、アガペワールドの理事、ジェフと奥さんのDee、晴恵と私の４人は去年そこの神学校で話をさせていただいたYWAM（ユース・ウィズ・ア・ミッション）に招かれました。今回はOne Familyという和解の活動をしている韓国の皆さんとの和解についての学びの会でした。韓国人、中国人、英国人、そして日本人が集まりました。英国人のマーガレットさんのお父さんは元捕虜でした。夜中に父親の悪夢の悲鳴を聞き続けて来たという方で、母親が日本人を赦せないまま亡くなったことを悲しんでいました。私たちは彼女に心から謝りました。彼女は始めは「あなた達のせいじゃない」と言っていたのですが、韓国の女性に「受け入れなさい」と勧められ、「ありがとう。感謝して謝罪を受け止めます。赦します」と泣きながら私たちの謝罪を受け入れてくれました。彼女はそれによって長年の重荷を下ろすことができました。**韓国の人たちは日本人に対して自分たちがしてきた歴史上の罪を悔い改めました。それは、蒙古が2回日本を攻めたとき、蒙古の属国とされていた朝鮮が、蒙古軍の指揮の下、日本を攻めたのだそうです。日本は台風によって2度難を免れましたが、犠牲者も非常に多く出しました。**そこにはOne Familyの指導者のお母さんが韓国から息子を訪問していました。私たちはこのお母さんにも心から悔い改めをしました。この方はたいへん穏やかな方で、日本を赦し、日本を祝福する祈りをしてくれました。中国（香港）の方にも謝りました。この方は初めは固かったのですが謝った後では、柔らかくなりました。私たちは素晴らしい機会を与えていただき、心が温かいもので満たされて家路に着きました。

元日本兵と元英兵将校捕虜の巡り合い

6月22日夕刻ロンドンの*The Army & Navy Club*で元日本兵、木下幹雄さん（95）と元捕虜達が巡り会う和解のレセプションがありました。木下

氏は大阪から娘さんに付き添われて出席。英国の元捕虜の方々は４名でした。このうちのSir Harold Atcherleyさん（97）が木下さん親子をロンドンに招待し、BBC関係のHelenさんと共に和解のひと時を設定しました。40人ほどの報道陣や招かれた人たちが集まりました。私もご招待を受けました。日本大使館からは、林大使を

木下幹雄氏 & Helen

木下幹雄氏 & Sir Harold Atcherley

含めて３人が出席されていました。103歳のDr. Billもイエス様を信じておられます。主催者のSir Haroldさんとは多くの報道陣に囲まれていましたので思うように話ができませんでしたが、彼が、Agapeのメンバーがたいへん親しくなった元日本兵阿部宏の下で捕虜だったことが分かりました。阿部さんは戦時中は非常に悪かったようですが、自分の戦時中の経験を告白し、Agapeの和解の旅の参加者達に東京で謝ることを続け、赦され、多くの友を得、喜びと感謝に満たされた老後を送りました。神に感謝です。Sir Harold氏にメイルを出しましたら、翌朝お電話くださり、7月6日に彼を訪問することになりました。木下さんと娘さんにも大阪で会うことになりました。

アガペワールドでの活動記録

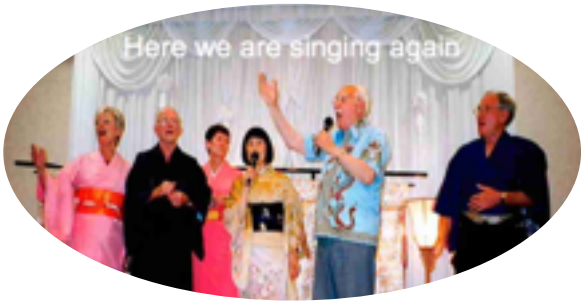
榎本和能・周子

FEPOWsの「癒しと和解の旅」について知ったのは、1993年の秋でした。元捕虜の方々が、岡崎文さんのご両親（紀和町）の家にホームステイされた際、私たち英会話教室の仲間達も英語つながりということで招待されました。ご両親の心のこもったおもてなしにより、皆とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。日本の中心から一番遠いといわれる熊野に居ても、こんなに素晴らしい国際交流ができることに心から感激しました。

1995年の秋から、岡崎主税御主人の協力の下、奥さんの岡崎文をリーダーとして英会話教室のメンバーが中心となり、熊野アガペの活動が始まりました。我が家には、1995年から2006

Kaz and Shuko with the singer at the
Afternoon Tea & Classic Concert at a Church

年の間に、10回、22名の元捕虜の方々やその家族がホームスティして下さいました。宿泊を少しでも快適に過ごして頂こうと事前に手紙のやりとりをして、こちらの様子を知らせたり、食事について尋ねたりしました。これはとても効果的だったと思います。仏間に赤い緞子の布団を敷き、畳の上に寝ることも大いに気に入って頂けました。我が家の畑で、ミカン狩りも楽しんで頂きました。また、熊野滞在中のウエルカムパーティも大きなイベントの一つでした。中でも着物ショーはいつも大人気で、着物を着せて



もらった奥様達に、再度跪いてプロポーズする夫達に大拍手、大盛り上がりでした。最後は、参加者全員で手をつなぎ、大きな輪になり、"蛍の光" "We'll meet again!" を歌って再会を誓い合いました。忘れがたい素晴らしい思い出です。我が家に宿泊した中で、印象深かったのは、2004年のアネットとコリンの夫婦です。アネットのお父さんは元捕虜で、大の反日家でした。街中で日本人を見かけると飛びかかっていく程でした。そんな彼が、恵子に誘われ、日本を訪れ、まるで別人になって帰国したそうです。アネットは、そのお父さんに勧められて「和解の旅」に参加したのです。その様な話は今までに何度か聞きましたが、その度、恵子達の働きの素晴らしさを痛感させられました。そして、その活動に少しでも関わることができ、幸せでした。11年間の大きな支援を受けた活動は終わりましたが、初めの主に依り頼んだ「心の癒しと和解の旅」に戻り、熊野を訪れ、紀和町で亡くなった元捕虜の家族による墓参は、その後も続いています。その時には熊野での滞在が少しでも思い出深く、心休まるものにして頂きたいと思っています。アガペワールドの活動が、これからも末永く続きますように願っています。

アガペ京都への祝福

アガペ京都代表　杉野マリ子

私がアガペのお手伝いさせて頂くようになって、今年で丁度15年になります。当初は戸惑いつつも、英国からのお客さんをお迎えすることが楽しく、ホームステイやホームビジットを多くの方々と一緒にお手伝いしました。やがて、ゲストの方々が味わった戦争体験の深刻さに触れるにつけ、私たち日本人が、過去を済んだこととして蓋をしたり、知らぬ存ぜぬで済ましていることに気がつくことができました。加害者は忘れていたくても、被害者は生涯決して忘れず、本人だけでなく家族の運命を変えてしまうほどの心の傷跡を残しておられます。自分の国が犯した罪を、自分の罪として、逃げず、弁解せず、しっかりと謝っていく大切さを、私はアガペを通して学びました。また、辛い目に会われた人々も、早く過去の呪縛から解放されたいのです。そのために赦す心の準備が出来ていらっしゃるのです。どのような理由であれ、屈辱を与えた方が謝罪して、赦して頂く、それこそが壊れた人間関係の回復への大切な一歩である事を学びました。聖書の世界と同じです。創造主を忘れて無視して勝手に生きてきた人間が、方向転換してすみませんでしたというだけで、神と人の関係が回復するのと同じ原理だと、知りました。

同志社国際高校で学生たちと歓談する元捕虜たち

来日が年に2度が、2年に一回になったり、数が25名から数名に変化してきている昨今でも、アガペは今も続いています。今まで数知れない楽しい思い出、記念すべき出来事が多くありましたが、特に昨年2014年の祝福を記しておきたいと思います。この年は秋に数名ずつ、合計2回のグループが来日されました。

初めのグループは、新潟県青海市の電気化学工業会社で戦争捕虜として働かされていた方々の次世代の人たちの働きかけで、立派な記念碑が建立され、その記念式典が9月5日に持たれたことに始まりました。小さな町に続々とニュージーランドや英国から、遺族が集まってこられ、この式典に参加されました。亡くなったお父様の遺影をもって、或はまだ健在だけれども長旅は無理になった高齢のお父様に代ってこられたご家族等様々でした。東京の英国大使館から、大使や関係者も参加されました。記念碑建設は、2年前のアガペで来日されたリンダさんの働きかけに、若い社長さんが腰をあげて取り組まれた

Kevin

Linda

と聞き、感動しました。リンダ&ケビンご夫婦の呼びかけで、2012年のアガペ「心の癒しと和解の旅」で来日された方々も、再来日され、新潟の後京都へも訪問してくださいました。すっかり日本通になられた方々をすでにガイドブック

Kyoto Agape Team

で楽しみにしておられたところにお連れすることができました。比叡山のドライブウェイ、山頂のガーデン等、食事もお好み焼き、串カツ等、時には日本のマクドナルドも味わいたい方もいて、皆様の要望にそうような自由でカジュアルなものでした。そして、私たちが考えなければならないのは、若い世代への、戦争体験の伝承です。今回は光華中高、同志社大学の学生さん

たちに話す機会をもち、恵子だけでなく、捕虜次世代の方々も証言してくださいました。また、交流も和やかに進みました。お土産にお茶福砂や、懐紙を、かわいい笑顔と共に頂きました。（次回に続く）

小堀滓志 & 豊代子夫妻

アガペワールド支援会より

こちら東京ではうっとうしい梅雨の季節となりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？アガペワールドのためのお祈り、ご支援を心より感謝いたします。

去年の12月以来、半年ぶりのニュースレターとなりましたが、神様からの沢山の恵みを皆さまとともにこのニュースレターを通して分かち合える恵みを大変嬉しく思っています。

今年も恵子ホームズが7月半ばから9月の終わりまで来日しますので、もし、メッセージ、祈り会、交わり等のご希望がありましたら、アガペワールド日本代表の小菅、または支援会の小堀までご連絡ください。梅雨の後には本格的な暑い夏がやってきます。皆様どうぞお元気で暑い夏をお過ごし下さい。皆様の上に主の豊かな祝福と導きがありますようにお祈りいたします。

支援会　小堀滓志・豊代子

我が家の前の私道に沿って植えられたリンゴの木。豊かに花をつけました。今年５月の写真

今はたわわに実が付いています

アガペワールド支援会連絡先：

195-0061　東京都町田市鶴川1-17-9　小堀方
Tel/Fax: 042-810-5481

メール：kobori531@jcom.home.ne.jp
支援金送り先：名義は「アガペワールド」支援会
＊郵便振替：00180-9-679184 青色振り込用紙を用意しています。

＊ゆうちょ銀行：記号　10040　番号　29475731
＊三菱東京 UFJ 銀行：普通口座 鶴川支店　（２３３）番号 0319665